

<金標準、イベント終了に伴う円高で 9100 円割れへ・・・>



(出所：オアシス)

FOMC では、FF レート誘導目標を 5.25%~5.5%の据え置きを発表し、声明文では「より長期にわたって最大限の雇用と 2%のインフレを達成することを目指す」と記載されるなど「より高く、より長く」の印象を与えた「タカ派の据え置き」を示している。特に債券市場では長期 10 年債の金利が 2007 年以来の 4.5%を付けるなど、為替市場ではドル円が 148.45 円まで円安・ドル高が進んでいる。特に NY 金は ECB 理事会を受けた利上げピークの思惑を受けて上昇したが FOMC やスイス中銀の据え置きでドル買いフラン売りの動きに下げている。特にイベント終了から週末には円ドルでもドルの高値が止まるなど出尽くし相場の円高・ドル安の動きへ変化する可能性も高まると思える。そのため金標準先物では、円安の恩恵が後退し 9233 円の高値が目先の高値となる可能性が高まると思える。ただ月末には米国下院議会で 2024 年度国防歳出法案が否決される様であれば、政府機関の一部閉鎖の可能性が高まるだけにリスク逃避の巻き戻しには注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** と **シグナル**が切り上げているが、乖離が縮小しており転換する動きに注意が必要である。RCI では**短期**が上昇し、**長期**は横ばいしている。そのため強気の継続であるが、高値が止まると調整安には注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,220,000 円(2023 年 9 月 25 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 9 月 25 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>